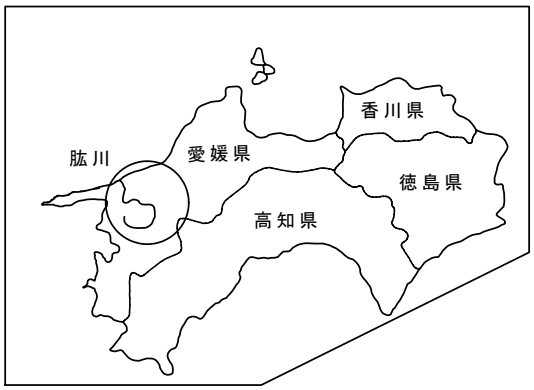
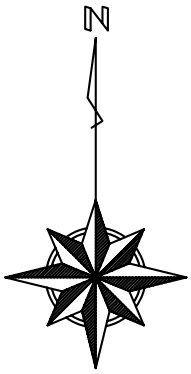
肱川は西予市の中心部を流れる代表的河川であり、市民に豊かな自然空間を提供すると供に農業用水の源となっている。洪水のない河川を目指すと供に、豊かな水を提供し、生物の生息・生育環境を保全・再生し、日常生活の中での潤いのある空間として人と川との共生が望まれている。

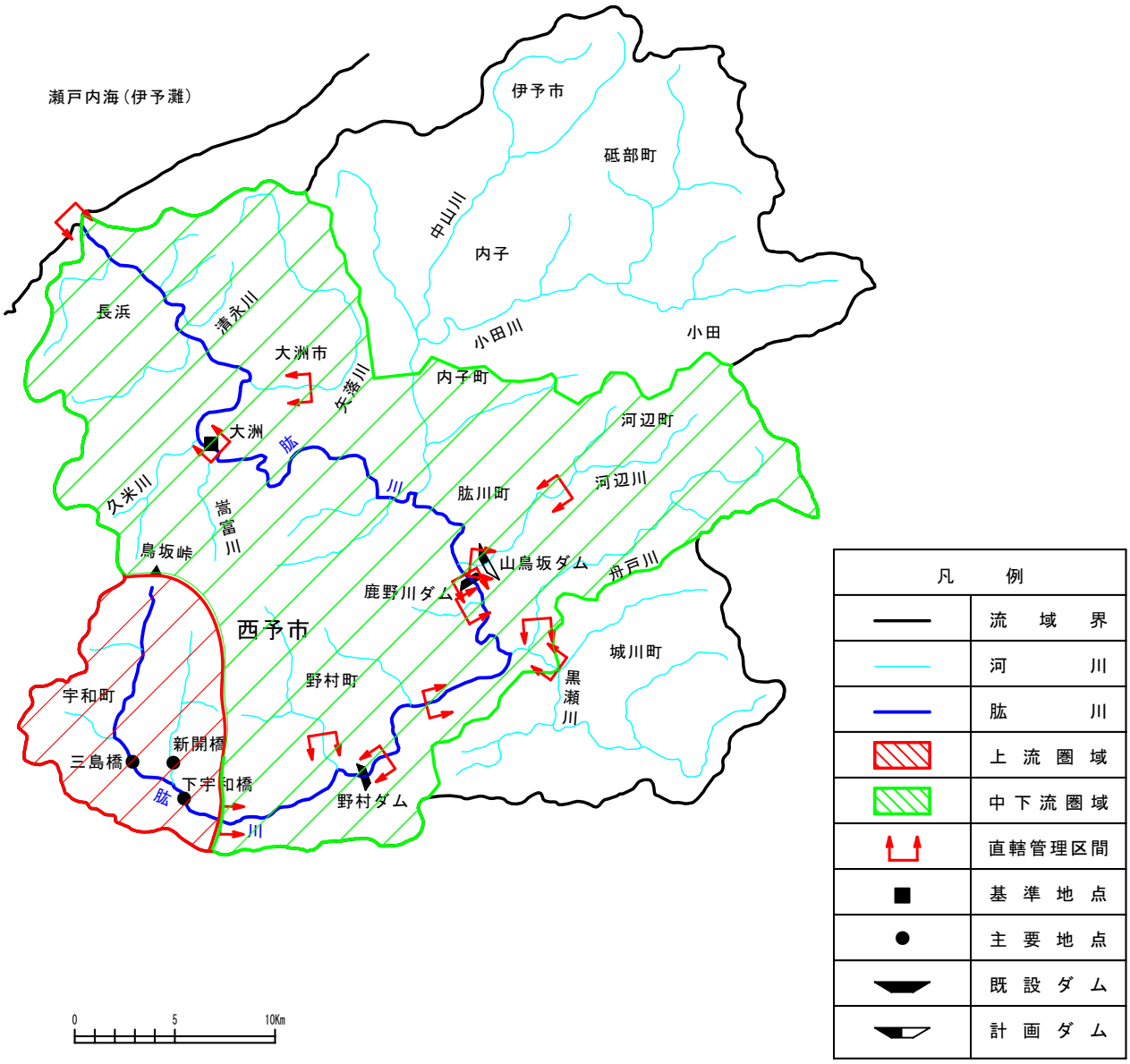
肱川は鳥坂峠(とさかとうげ)に源を発し、宇和盆地のほぼ中央を南に流下、卯之町(うのまち)付近で東に向きを変え野村(のむら)ダムに流入している。途中平野川(ひらのがわ)、鳥越川(とりごえがわ)、田苗川(たなえがわ)、深ケ川(ふけがわ)、根笹川(ねささがわ)を合流し卯之町(うのまち)市街地を流下、その後西川(にしかわ)、岩瀬川(いわせがわ)の各支川(かくしせん)を合流する。直轄管理区間流入地点での流域面積は約 106km^2 である。

肱川の河床勾配は、野村ダム上流が約 1/250 の急勾配であり、市街地付近は広く盆地が開け約 1/500 の比較的緩い勾配である。また、上流部は、両岸に山が迫り約 1/100 の急勾配となっている。

途中で合流する鳥越川、田苗川、深ケ川、根笹川等は流域上部に山地部を有するものの、大部分が盆地部分を流下する支川である。岩瀬川は、圏域の中で最も広い流域面積約 24km^2 を有する支川である。圏域の河川はすべて県管理区間(指定区間)となっている。

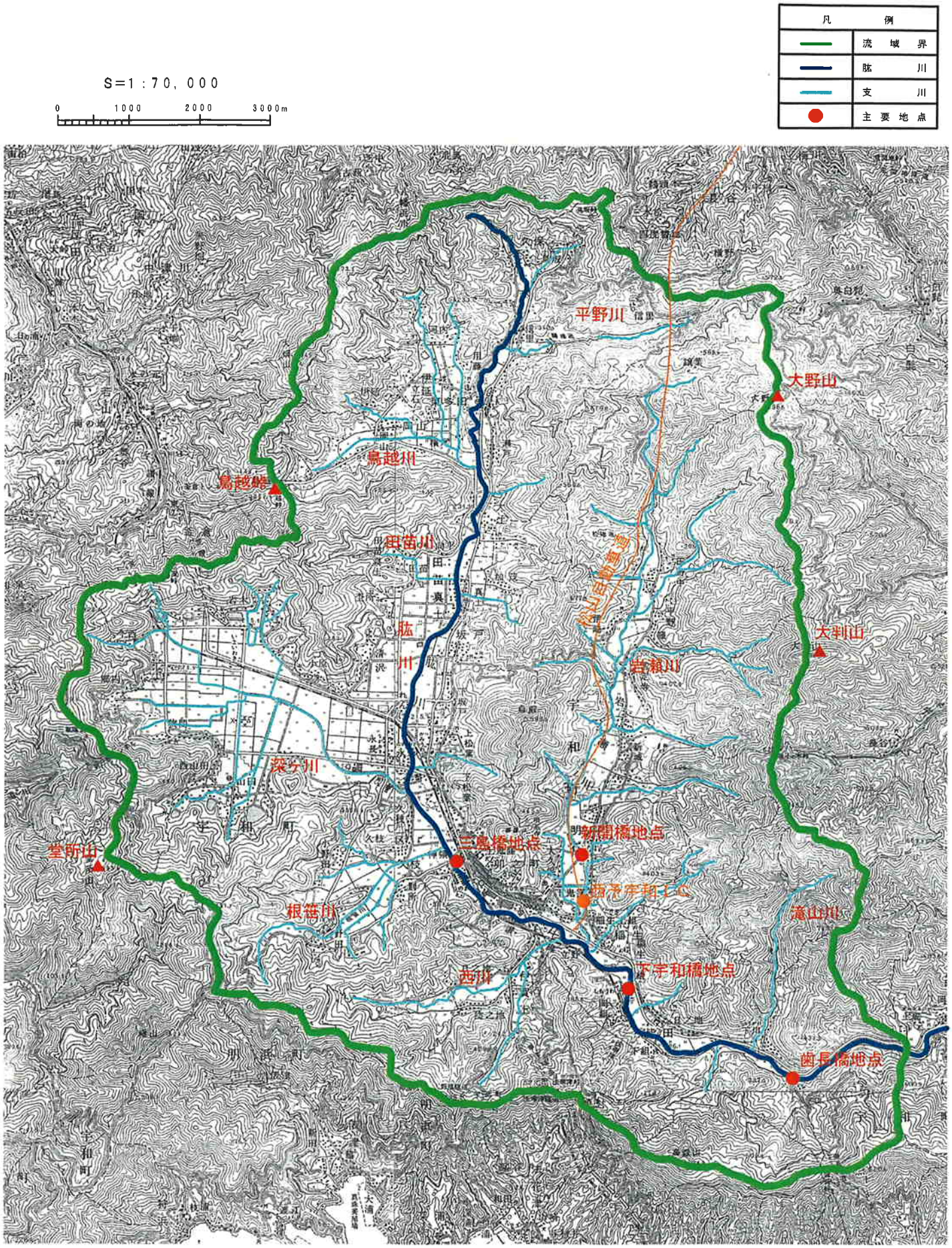






※肱川水系河川整備計画【中下流圏域】は平成16年5月に策定

図- 1: 肱川水系流域図



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分１地形図を複製したものである。（承認番号 平19四複、第29号）

図-2 ： 肱川流域図〈上流圏域〉

1.2 現状と課題

1.2.1 治水の現状と課題

圏域での河川改修は、昭和36年度より卯之町地区を中心に中小河川改修事業として着手、平成4年3月、岩瀬川合流点から大江地区(おおえちく)までの両岸、6.2kmを完成させた。

平成6年度には、下流の歯長橋(はながばし)下流145m地点から西川合流点までの未改修区間、一次改修において片岸しか施工されなかった区域の合計4.7km区間(改修済0.20km含む)、並びに岩瀬川1.5km区間について改修計画を策定し、現在、改修を進めている。

大江地区より上流部の肱川、及び主な支川である深ヶ川、田苗川、岩瀬川においては、昭和55年より現在まで小規模河川改修事業等により部分的な改修が実施されている。

肱川水系(上流圏域)における浸水被害の直接的な気象要因は、台風や梅雨前線に伴う豪雨であり、溢水(いっすい)や内水による浸水被害が起きている。主な洪水被害は、昭和62年7月の梅雨前線豪雨および台風5号を降雨原因とするもの（既往最大）で、圏域全体で床上浸水19戸を含む388戸の浸水被害が発生しており、その内、河川整備計画対象区間では卯之町(うのまち)、明石(あげいし)などの地区で床上浸水3戸を含む130戸の浸水被害となった。近年では平成8年7月に床下浸水16戸（宇和町全域)、平成11年8月に床下浸水36戸（宇和町全域）などの被害が発生している（「宇和町防災計画計画偏」より）

歯長橋より岩瀬川合流点までの本計画対象区間は、未改修または片岸のみの築堤であるため、流下能力が著しく不足している。この状況を解消するため、歯長橋下流145m地点より岩瀬川合流点までの4.32km区間の早期改修が必要となっている。

また、岩瀬川は肱川との合流地点を除き未改修で、河道には固定堰が設けられるなど、著しく流下能力が低い状況である。下流部には四国横断自動車道の西予宇和インターチェンジもあり、商業施設等各種施設が整備されており、早急な治水安全度の向上が必要である。